



戦略的大学連携支援事業

知の拠点として地域をリードする
大学間教育ネットワーク推進事業

進捗状況

平成21年8月6日

代表校	佐賀大学
連携校	西九州大学
	九州龍谷短期大学
	佐賀女子短期大学
	西九州大学短期大学部

目次



■ 本事業の概要

■ 全体の事業計画

■ 進捗状況

1. 教育ネットワークの充実したシステムと体制作り
2. 共通教育科目Ⅰ(同期型遠隔授業)
3. 共通教育科目Ⅱ(非同期型のネット授業)
4. 共通リメディアル教材作成
5. 教員免許更新講習
6. 人材バンクの構築
7. 人材育成(リカレント教育、社会人学び直し)
8. 学生活動支援
9. 留学生支援
10. FD/SDの推進

■ 実施体制

■ 成果

■ その他



■本事業の概要

本事業の目的は、佐賀県内の国私立大学間の教育ネットワークを充実させ、地域の高等教育の質の向上と活性化を図るものである。

この事業では、地域の有識者等を登録した人材バンクを活用して、大学間共通のリメディアル・共通教養・リカレント教育及び教員免許更新講習に対応する教育事業を共同開発し、地域高等教育力を底上げする。

また、共通教養教育科目の開講により、学生は多様な科目が受講できる。授業は遠隔授業としても配信するので、学生や教職員の移動負担が軽減できる。地域住民にも多様な学習の機会を提供することにより、地域の教育環境の充実が期待できる。

さらに、本事業は大学間の授業の共通化を推進するとともに、教職員のFD/SD研修、学生の活動支援、留学生支援、地域貢献事業の共同作業も総合的に推進する。

■事業全体の年次計画



	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1 教育ネットワークの充実したシステムと体制づくり	事務局の体制づくり・コーディネーターの雇用 遠隔授業システムの構築と維持、改善		
2 共通教育科目Ⅰ 【同期型の遠隔授業】	実施科目の検討	○遠隔授業の実施、評価に基づく修正 ○従来科目＋新共通科目の毎年10科目程度を実施 遠隔授業実施における人的支援の改善	
3 共通教育科目Ⅱ 【非同期型のネット授業】	科目開発準備	○質の高い講義の開発（設計、実施、評価、再設計） ○新しい共通のネット授業科目を毎年2科目程度制作 講義コンテンツの開発	
4 共通リメディアル教材作成 英語、数学、理科等	科目の検討	高大連携による入学前教育（リメディアル教材）の開発 自学自習用コンテンツの制作	
5 教員免許状更新制講習	試行と今後の実施内容の検討	講習会の実施（対面式＋遠隔式）による問題点の把握と改善 教員免許状更新制講習用コンテンツの開発	
6 人材バンクの構築	人材バンクの登録	人材バンクの活用、地域の知と技の集結	
7 人材育成（リカレント教育、 社会人学び直し）	科目の検討	共通公開講座の実施、特別の課程プログラムの企画・開発 資格試験用コンテンツの制作	
8 学生活動支援	現状調査	スポーツ・文化活動の共同開催、インターンシップ斡旋	
9 留学生支援	現状調査	地域イベントへの留学生の参加、インターンシップ斡旋、就職斡旋	
10 FD/SDの推進	現状調査	共同の研究会、報告会、研修会等	

平成23年度以降は、大学コンソーシアム佐賀が事業を継続する



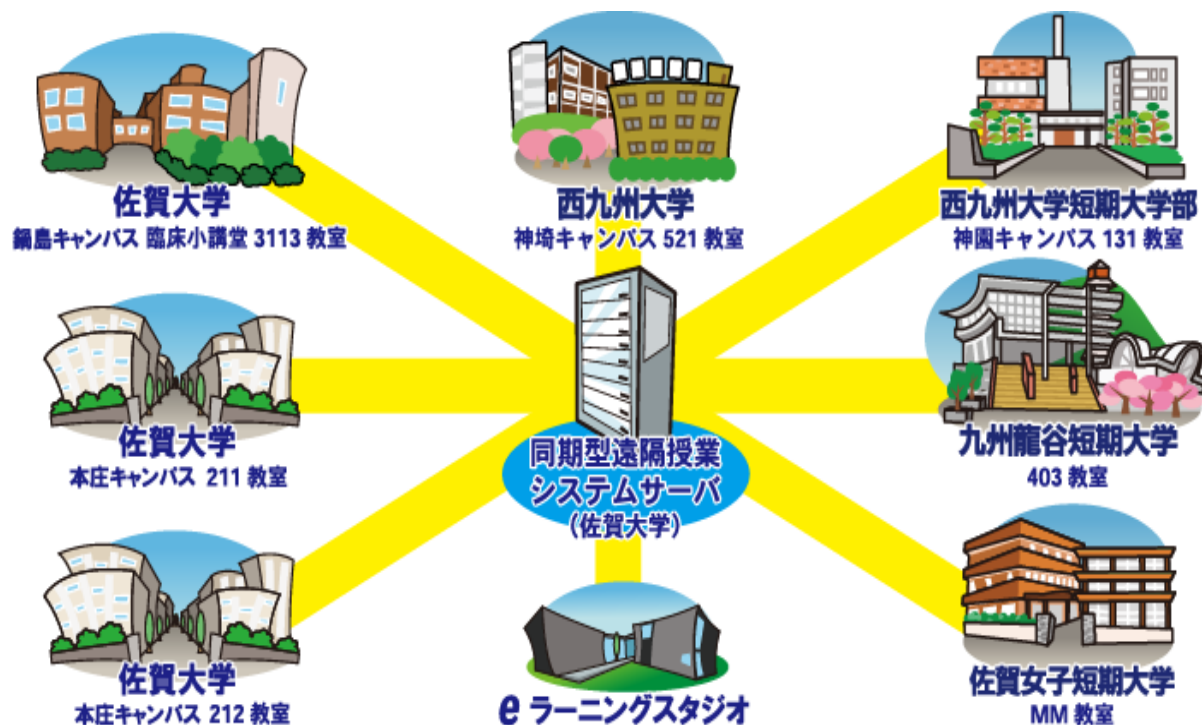
■進捗状況

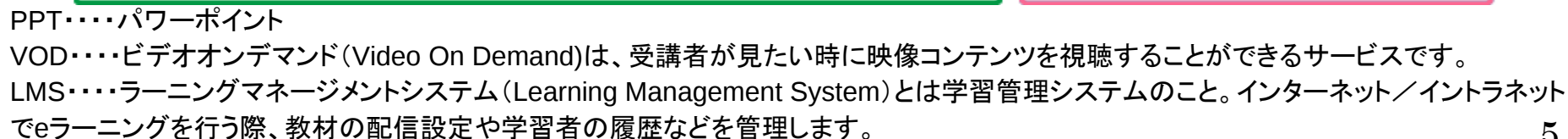
1. 教育ネットワークの充実したシステムと体制づくり

5つの連携大学のキャンパスを遠隔授業システムで結ぶ

学生はいずれのキャンパスでも講義を聴くことができ、質問のやり取りもできる

結果、移動の負担がなく他大学の授業が受けられるようになった







同期型遠隔授業支援体制と作業

ディレクター(佐賀大学eラーニングスタジオ1名)

- 1週間前までに講師と講義の打ち合わせ
- 必要であれば、データを受け取り準備作業
- ネットワークカメラのコントロール
- 講義教室・遠隔教室の音声確認
- 講義中アシスタント・ディレクターとの連絡

アシスタント・ディレクター(各大学1~2名)

- 教室設置機材の準備
- ネットワークへの接続
- ネットワークカメラの接続
- マイクの管理と教室の音声の確認
- 講義中ディレクターとの連絡

2. 共通教育科目Ⅰ【同期型遠隔授業】

同期型遠隔授業科目(平成21年度)

前学期

科目名	講師名	時間割	開講大学	開講期間	試験期間
身近な環境 ～知ろう・見よう・考えよう～	みやじま とおる 宮島 徹 こだま ひろき 児玉宏樹	木曜 時間割外 (19:00～21:00)	佐賀大学	H21年4月10日 ～ H21年7月22日	H21年7月27日 ～ H21年7月31日
暮らしと人権	ふじ よしなり 藤 能成	火曜 4校時目	九州龍谷 短期大学	H21年4月6日 ～ H21年7月22日	H21年7月23日 ～ H21年8月1日
ホスピタリティ論	ながえ ますみ 永柄真澄	木曜 4校時目	佐賀女子 短期大学	H21年4月13日 ～ H21年7月29日	H21年7月30日 ～ H21年8月5日
ボランティア入門	ながた まこと 永田 誠	火曜 2校時目	西九州大学 短期大学部	H21年4月6日 ～ H21年7月28日	H21年7月21日 ～ H21年7月28日

後学期

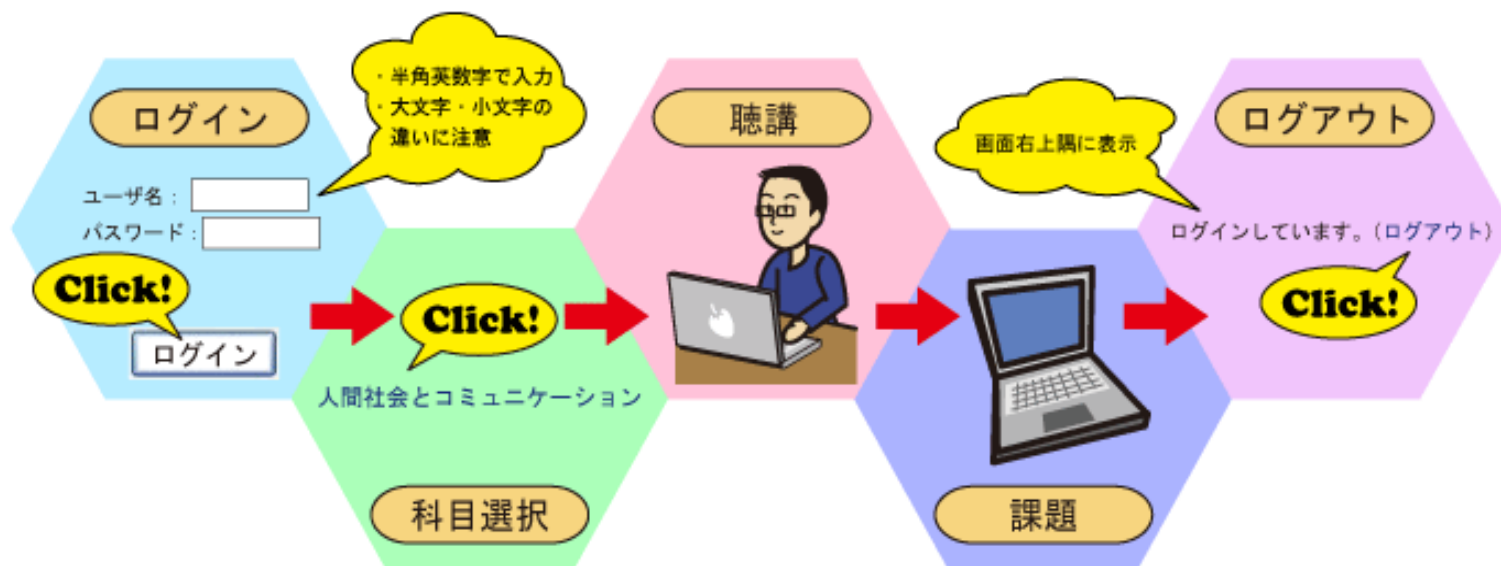
科目名	講師名	時間割	開講大学	開講期間	試験期間
高齢者や障がい者への生活・就労支援概論 —医工福祉連携による展開—	ほりかわ えつお 堀川悦夫	木曜 1校時目	佐賀大学	H21年10月2日 ～ H22年2月19日	H22年2月3日 ～ H22年2月18日
生命論	ながた まこと 永田 誠	火曜 2校時目	九州龍谷 短期大学	H21年10月1日 ～ H22年2月8日	H22年2月4日 ～ H22年2月8日

3. 共通教育科目Ⅱ【非同期型のネット授業】



- 「ネット授業」は、いつでも、どこでも、何度でも聴講できるVOD型のフルeラーニングである。講義を収録した映像、音声および講義内容が記述されたPowerPointをもとに制作されたVOD型講義コンテンツを、インターネットに接続されたパソコンで聴講し学習する授業方式。

聴講方法



平成21年度ネット授業



平成21年度 ネット授業科目

前学期

科目名	講師名	開講大学
芸術と表現（有田焼入門）	たなか ゆうき 田中右紀	佐賀大学
芸術と表現 （画像へのアプローチ－その背景と視点）	おおつかせいこ 大塚清吾	
地域の環境 一森・川・海をつなぐ環境と暮らしー	みやじまとおる 宮島 徹	
人間社会とコミュニケーション	はやせ ひろのり 早瀬博範	

後学期

科目名	講師名	開講大学
伝統工芸と匠	おおつかせいこ 大塚清吾	佐賀大学
チャレンジ佐賀学	いくま ひろのぶ 生馬寛信	
地域の環境 一森・川・海をつなぐ環境と暮らしー	みやじまとおる 宮島 徹	
人間社会とコミュニケーション	はやせ ひろのり 早瀬博範	
仏教入門	はらだ やすのり 原田泰教	九州龍谷 短期大学

第七回 「木版摺更紗」 鈴田 滋人

プロローグ
鍋島更紗
制作工程（スケッチと図案）
制作工程（版押し）
制作工程（型絵染め）
資料館
インタビュー



再生 停止 巻戻 早送 6:57/15:10

音量

制作工程



型絵染め

色をのせていきます。洗剤を塗った和紙で作った型紙を置き、刷毛をつけて色をつけていきます。穴が開いているところに色がつく。1色塗り終わったらしばらく乾かして次の色を塗る。これを何度も繰り返すことで、細やかな模様が出来上がっていくのです。

「一番見せたい色というのはこの桃の色ですね。桃の色をいかにきれいに見せるかと。色的にはそういう見せ方を顔において、あとはその生かす色ということで緑とかちょっと濃いベージュ系の色を使った方がいい。」

色むらがでないよう、同じ色の染料は一気に塗らなければなりません。一旦塗りの作業に入ると完成するまで電話にも出ず作業に没頭するそうです。「一色をなるべく効果的な色に見せる様な図案を考えて行かないと、やたらたくさん色を使うと膨大な作業の量になるし、それだけの効果があるかどうかというのも含めて作業でデザインを考えるって言うのも非常に大きな要素と考えて、結果としてこういう模様のできに影響してくるような気がします。」

平成21年度前学期 共通教育科目の受講者



同期型の遠隔授業

科目名	授業形態	開講大学	履修人数
ホスピタリティ論	遠隔同期	佐賀女子短期大学	1名(佐賀大学) 17名(佐賀女子短期大学)
身近な環境	遠隔同期	佐賀大学	53名(佐賀大学本庄キャンパス) 11名(佐賀大学鍋島キャンパス)
ボランティア入門	遠隔同期	西九州大学短期大学部	2名(佐賀大学) 45名(西九州大学短期大学部)

対面授業

科目名	授業形態	開講大学	履修人数
生命のしくみ	対面授業	西九州大学	3名(佐賀大学) 39名(西九州大学)

遠隔授業体験の実施

目的: 遠隔授業(eラーニング)
を全く経験したことのない連
携大学の学生に対し、遠隔
授業の実施形態を公開する
ことで受講意欲を喚起し、共
通教育科目の受講者増を
図る

実施日:

2009年7月13日、14日



会場: <発信教室> 佐賀大学

同期型遠隔授業教室(九州龍谷短期大学)

<受信教室> 西九州大学・九州龍谷短期大学

佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部

参加人数: 連携大学の学生・教職員 134人



今後の見通しと実施計画 (遠隔授業部会・共通教養教育リメディアル教育部会)

- 遠隔授業以外の利用拡大(連携大学間の会議や研究打ち合わせ、学生活動等での活用など)
- 同期型遠隔授業教室の整備
プロジェクター&スクリーンを1教室に2セット設置して、講義の臨場感を引き出す(平成21年度)
エコーキャンセラーの導入(平成22年度)
- 共通科目のネット授業化(毎年2科目程度)
- LMS(Moodle)の利用環境の拡大
- インターネット環境の改善
- 同期型遠隔授業システムの映像を使ったDVDの改善を行い、HP上で閲覧できるようにし、受講者増につなげる
- 平成21年度前学期共通教養科目の受講生アンケートを基に、授業形態等の検討を行い、充実した学習環境を整える
- 平成21年度後学期に開講される遠隔授業を公開する「授業体験会」を実施し、受講者増に努める
- 現在開講されている科目に加え、佐賀地域の歴史・文化・環境などを学習する「佐賀学」の科目開発を行い、共通教育科目の更なる充実を図る

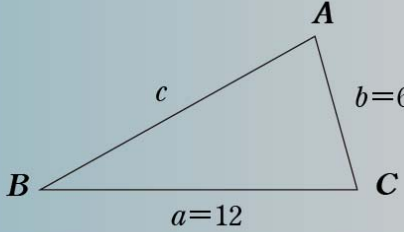


4. 共通リメディアル教材作成

- 共通リメディアル教育WGを立ち上げた
- 連携大学において、リメディアル教育アンケート実施し、科目の検討を行って、数学、化学、生物の教材を開発することになった
- eラーニングを利用したリメディアル教育を実施する
- 教科毎に、開発グループを組織して開発している
- 共通リメディアル教材を開発するに当たり、佐賀大学の数学と物理の演習問題等の教材をコンテンツ化して、連携大学で利用しやすい最適な教材のモデルを制作している

数学 A
三角形 演習問題

問 10 $\triangle ABC$ で $a=12$ 、 $b=6$ のとき c の辺の長さの範囲をもとめよ。



答え
 $6 < c < 18$
【解説】
三角形の定理
三角形の一边の長さは他の2辺の和より小さく、
差より大きい
定理を式で表す
 $|a-b| < c < a+b$

close

100 / 100
スコアを表示

Answer ヒント 判定!

今後の見通しと実施計画（共通教養教育・リメディアル教育部会）

開発する科目（平成21、22年度）

- 数学 3レベル(①小5～中1・②中2～高1・③高2～大学入学)
- 化学 3分野(①物質の構成・②物質の構成粒子・③物質の変化)
- 生物 3分野(①生命の連続性・②細胞・③遺伝)

■ 開発した教材を施行する

推薦入学決定者にリメディアル教育を実施（入学前教育）

↓
アンケート等の調査により、教材の問題点を抽出

↓
リメディアル教材や適応方法の改善



- さらに、英語・国語のリメディアル教材の開発（平成23年度）





5. 教員免許更新講習

- 大学コンソーシアム佐賀での開講はできないので、連携大学毎に開講し、協力することとした
- 平成20年度予備講習の情報を共有した
- 講師派遣・講習区分・講習数・受講人数・開催地開催期日等についての調整を行った
- 大学コンソーシアム佐賀HP内の教員免許更新講習のページと、連携大学すべての教員免許更新講習のページとリンクし、情報を共有した
- 県内約800人の受講者が漏れなく講習を受講できるよう調整した
 - ・ 開講講座数 : 57講座（佐賀大学49講座、他大学各2講座）
 - ・ 募集人数 : 3900人（延べ）
- eラーニング型教員免許更新講座「教員のための環境教育（初等教育編）」の連携制作を行っている（平成21年度開始）

今後の見通しと実施計画（教員免許状更新講習WG）

- 平成21年度の教員免許更新講習の問題点を検討し、調整を行う。
- 平成22年度教員免許更新講習開講に向け、情報の収集を行う。
- 平成22年度講に向け、開催地、講師派遣等の調整を行う。



6. 人材バンクの構築

人材の調査・登録及び分類

- 連携大学の教員の登録を行った
- 地域の有識者・有技能者の集め方・分類方法の検討を行い、登録依頼活動を行っている

人材バンク登録者(地域社会人)

分野	人数	分野	人数	分野	人数
情報・メディア	2	郷土史	3	芸術	7
社会教育	5	地場産業	1	郷土芸術	2
経済・金融	4	宗教	1	民俗芸能	1

今後の見通しと実施計画（人材バンク部会）

- 「佐賀学」・「有明海学」・「環境学」関連の事業に参画してもらえる人材を集める
- リメディアル教材開発に協力頂ける小学校・中学校・高校教師を集める
- 登録した人材の活用

7. 人材育成(リカレント教育、社会人学び直し)



講演会・シンポジウム等の開催

- 講演会: 地域と大学との連携による「佐賀学の更なる展開を目指して」
- シンポジウム: 働く・働き続けるために～生き方と働きかたを考える～

公開講座

- 連携大学の既存の講座を調査し、共同実施のテーマを検討している

リカレント教材の開発

- e-ラーニングによる学習教材を作成した

今後の見通しと実施計画(リカレント教育・教員免許更新講習部会)

- 講演会、フォーラムを開催し、学び直しの機会を提供する
 - ①平成21年10月25日
 - ②平成21年11月29日
- 「佐賀学」・「有明海学」・「環境学」等の共通公開講座を実施し、eラーニング教材化する
- 資格試験に備えて、eラーニングでも学習できる教材の開発とその学習環境を構築する

8. 学生活動支援

学生組織立ち上げ

- 各大学代表者2～4人を選出した
- 学生組織による打合せを行った

イベントへの合同参加

- 佐賀城下栄の国まつり「総踊り」に参加し、地域との連携を図った
参加者:118名
- 「総踊り」合同練習会を行った
- 「総踊り」練習用DVDを作成し・配布した

大学祭視察

- 学園祭の相互視察を行い、情報交換を行う

今後の見通しと実施計画 (FD/SD・学生支援部会)

- 佐賀県の大学祭紹介冊子を作成する
- 共同学園祭を開催する
- インターンシップの情報を共有する



学生組織打合せの様子



踊り練習会の様子



9. 留学生支援



- 佐賀地域留学生等交流推進協議会と連携している
- 地域交流事業として、栄の国まつりに参加した
参加者:15名



栄の国まつりに参加した留学生

今後の見通しと実施計画 (FD/SD・学生支援部会)

公開講座の開設

- 外国語講座を開設する(公開講座等で週1~2回実施)
- 共通教育科目として「アジア国際事情(仮)」を開講する
留学生を講師として模擬的に講義を行う

イベントの実施

- 料理教室を実施する(各大学学園祭で郷土料理の展示即売を行う)

栄の国まつり参加者の様子



10. FD/SDの推進



- FD/SDフォーラムを行った
『学士力と高大接続の課題について』
参加者：79名
『金沢大学におけるポータル利用による教育改善の取り組み』
参加者：44名
『ティーチング・ポートフォリオとは何か』
参加者：61名
- SD研修の実施に向けて準備している
テーマ：「事務職員のプライドとアイデンティティ」
日時：H21年8月29日(金)～30日(土)
- 高大連携アンケートを作成した
目的：大学教員の教育意識改革のため
対象：佐賀県内の高校教員、高校生
内容：佐賀の大学・短期大学に期待することについて
- 高校生向け大学案内チラシを作成し、オープンキャンパスで配布した



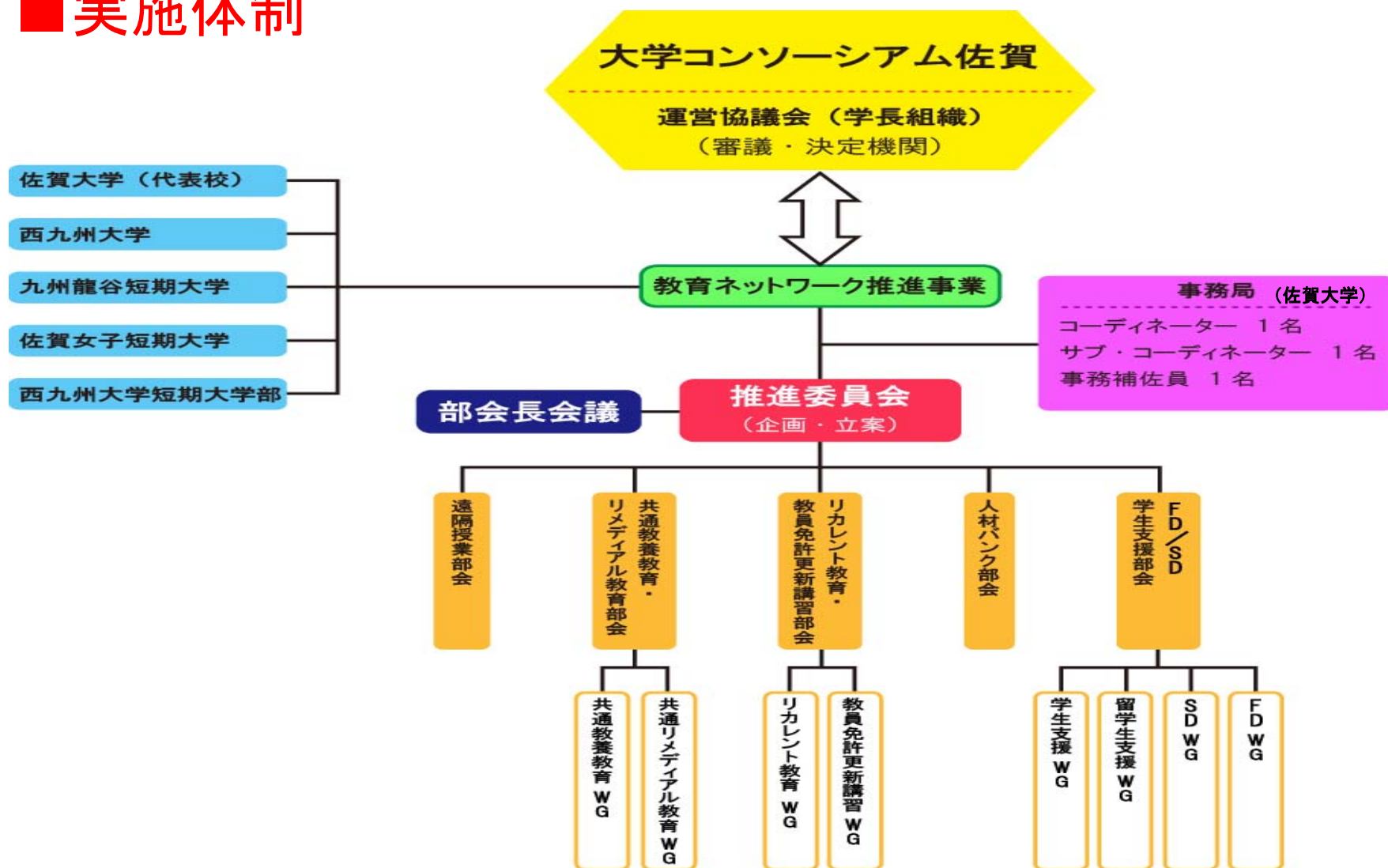
FD/SDフォーラムの様子

今後の見通しと実施計画 (FD/SD・学生支援部会)



- 高大連携アンケート調査を実施する
佐賀県高等学校進路指導部会に依頼済み
- FD/SD講演会を開催する
テーマ:「コミュニケーションスキル向上に向けて」 他
- FD週間を実施する
各大学決まった週にFDのための公開授業を行う
- SD研修会を実施する
- SD研修会の反省会及び次年度の開催に向けての計画を行う

■実施体制



遠隔授業部会を初めとする5部会には、すべての大学から委員が参加しており、協力して事業を運営する体制が整備されている。また、部会長会議にて部会間の連絡・調整が図られている。

会議の開催状況



会議名	平成20年度	平成21年度 (7月現在)
運営協議会	3	—
推進委員会	9	1
部会長会議	3	1
部会	19	11
（内訳） 遠隔授業	(4)	(1)
共通教養・リメディアル教育	(6)	(4)
リカレント教育・教員免許更新講習	(2)	(1)
人材バンク	(2)	(2)
FD/SD・学生支援	(5)	(3)
時間割調整 WG	—	2

評価体制

■ 自己評価

専門部会が事業毎の成果報告を取り纏め、推進委員会が事業全体を総括し、自己評価書を作成して、全連携大学の学長に提出する

■ 外部評価

外部委員として、佐賀県教育委員会・佐賀県立生涯学習センター・佐賀県経済同友会・佐賀新聞社・佐賀県高等学校校長会に依頼し、最終年度に本事業の評価を受ける予定である。



■ 成果



- 各部会ごとに実施体制を整備した。例えば、遠隔授業部会では、各大学にADを配置して、授業準備やトラブルに対応できるようになった
- 同期型遠隔授業教室の整備により、学生は移動せずに他大学の科目が履修できるようになった
- 単位互換制度を発足させ、平成21年度前学期から同期型遠隔授業等の共通教養科目を開講したことにより、学生の受講科目の選択肢を増加できた
- VOD型eラーニング講義(2科目)を制作した(平成21年度後学期開講)。
- eラーニング型教員免許状更新講座を連携して制作した
- 共通リメディアル教育WGを設置して、eラーニングを利用した共通リメディアル教材の開発を始めた
- 人材バンクの構築に着手した
- 佐賀県立生涯学習センターと共催でシンポジウムを開催するなど、生涯学習に関わる関係機関との連携が今後期待できる状況となった
- 学生組織を立ち上げ、地域の祭りの合同で参加した
- 連携大学のネット授業等を、生涯学習センター等を介して学習できる環境が構築されつつあり、地域の高等教育力向上に繋がった

■ その他(課題等)



- 共通教育科目の受講生を増加させるために、各大学の授業時間割の調整
- 学生が受講したい共通教育科目の増加、質の向上
- 同期型遠隔授業教室とアシスタントディレクター等の継続
- 地域の生涯学習センター等との強い連携
- 地域住民の学び直しの機会の増加